# 進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年１０月１７日
● 事　業　名　：　持続可能な地域のモデル創出事業
● 資金分配団体　：　公益財団法人 佐賀未来創造基金
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人 空家・空地活用サポート SAGA

① 実績値

| アウトプット | 指標 | 目標値 | 達成時期 | 現在の指標の達成状況 | 進捗状況＊ |
|---|---|---|---|---|---|
| 空き家を活用したシェアオフィスの運営 | シェアオフィスの業務開始 | 実施 | 2020 年<br>4 月 | 計画通り、2020 年 4 月にシェアオフィスの業務開始ができている<br>・初年度中に入居率 90%（10 団体）となった | 2 |
| 空き家問題解決プラットフォームの構築 | 空き家対策ネットワークの構成員数<br>居住支援ネットワークの構成団体数<br>勉強会の開催 | 15 名<br>8 団体<br>6 回開催 | 2023 年<br>3 月 | 空き家対策ネットワークの構成員数 15 名（2022/9 現在）<br>居住支援ネットワークの構成団体数 14 団体（2022/9 現在）※賛同票あり<br>勉強会の開催 5 回開催（2022/9 現在）<br>2022/11/22　6 回目の開催予定 | 1 |
| 地域円卓会議の開催 | 地域円卓会議の開催 | 3 回 | 2023 年<br>3 月 | 地域円卓会議の開催　2 回開催<br>2022/12/3　3 回目開催予定 | 2 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| エリアマネジメント協議会会議への参加 | エリアマネジメント会議への参加 | 12 回/年 | 2023 年<br>3 月 | 毎回参加できている<br>現在は参加にとどまらず事務局機能も担っている<br>2022 年も会議で出たアイディアにより、街なかの活性が進展している | 2 |
| 地域の遊休不動産の利活用支援業務 | 空き家オーナーからの相談件数 | ３０件<br>１５件 | 2023 年<br>3 月 | 2022/9 現在<br>42 件の相談案件中 17 件解決他 15 件継続中 | 1 |
| 住宅確保要配慮者向けの物件確保業務 | 住宅確保要配慮者向け物件確保数 | ２０物件 | 2023 年<br>3 月 | 2022/9 現在：<br>42 物件確保 | 1 |
| 住宅確保要配慮者の居住支援に資する基金（助成プログラム）の構築 | 助成基金の構築<br>プログラムの構築 | 10 万円<br>1 件 | 2023 年<br>3 月 | 2022 年 11 月に基金開設予定<br>基金運用についても構築中 | 2 |

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

| |
|---|
| 1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み |
| 2.概ね達成の見込み |
| 2.アウトカムの状況 |
| A：変更項目<br>☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐短期アウトカムの目標値 |
| 5. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点 |
| ・コロナ感染状況を確認してからの「お披露目会」などの開催<br>・ソーシャルディスタンスを取るために、「地域空き家円卓会議」などは、予定より広い部屋を借り、人数も縮小した。<br>・相談者を事務所に迎えるために、手指消毒液・体温計・空気除菌清浄機を準備 |

③　広報に関する報告

| 1.　シンボルマークの使用状況 |
| --- |
| ☑自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している<br>☑報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他<br>→「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）： |
| 2.　広報 |
| 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）<br>サガテレビ、NHK、佐賀新聞、読売新聞、西日本新聞、毎日新聞<br><br>2.広報制作物等<br><br>3.報告書等<br><br>4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） |